

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

令和四年度総祈願
本年度教化誓願達成・学徒一名増加
日堯上人五ヶ年報恩御奉公寺内境内修復御有志奉納成就
人と未来を繋げる御奉公推進之御願
積極的御法門聴聞励まし声かけ助行御利益感得口唱実践

十二月の御総講日

- 一日 十時 御修行日
- 七日 十時 バースデー総講
- 十三日 十時 高祖御命日
- 十七日 十時 開導御命日
- 廿五日 十時 門祖御命日
- 併御本尊御会式
- 於 清流寺
- 十二月 十時 高祖御遠夜
- 十六日 十時 開導御遠夜
- 廿四日 十時 門祖御遠夜
- 併歡尊御命日

十一月六日

高祖日蓮大菩薩御会式

晴天のお計らいの下、無事奉修



奉修導師をお勤めのご住職

本年最後の御会式、高祖会が十一月六日、午前十時三十分より、晴天のお計らいをいただき無事に奉修され、当日は、例年の通り、七五三御礼参詣もあり、本年は該当者が二名で、御会式の中のお祝い式で、御住職より記念品をいただき、満堂の拍手を受けていました。

本山初灯明料の奉納

志を篤く功德を積みましよう
一年の経は初灯明料にあり

本山御初灯明料は、宗門三大奉納金の中でも一番大きなウエイトを占めています。一年の計は、元旦にありと、いわれており、年頭に一年の計画を立てますが、当宗では、新年の初灯明料の奉納により、一年間の経済のお計らいをいただきますよう。

×切日は一月七日になっておりますので、よろしくお願ひします。

第四世講有日教上人御墓前式

令和五年一月八日
墨田区・清雄寺にて

令和五年の御墓前式が、一月八日(日)本所・清雄寺に於て開催されます。

何末年始の行事

十二月廿五日 御本尊御会式
日頃、格護されている御本尊を、年に一度奉安して御題目をお唱えし、法味供養をさせていただきます。行事です。

十二月三十一日 除夜法要

- 第一座 十九時
- 第二座 廿三時三十分
- 令和五年 一月一日 新年初御看經
- 第一座 廿四時〇分
- ※第一座は除夜法要に引き続き行います。
- 第二座 午前七時より
- ※羽村別院の新年初御看經は午後一時より。

令和五年寒参詣

一月六日～二月四日
寒供養の申し込みはお早めに
一月六日より令和五年度の寒参詣が始まります。

例年のとおり、寒供養も実施されますのでなるべく早めに申し込んで下さい。

成人式のご案内

一月三日 初総講に併修

来る令和五年一月三日の初総講に併せて、令和五年度清流寺成人式が挙行されます。

各教区は、該当者を調査して早めに寺務所に申し込んで下さい。

年末大掃除

廿五日 御総講後

年末の大掃除を廿五日の御総講後に実施致しますのでご奉公をよろしくお願ひ致します。

同帰亭要語録

一向令唱題目



妙法蓮華經ノ五字ハ經ノ文ニ非ズ。其ノ義ニ非ズ。唯ダ一部ノ意ノミ。

(四信五品抄縮 1542)

日蓮聖人の門下は皆一同に南〇經と唱えるのですが、南無とは帰依する事であり、帰依するということは是を信じ、

せん。法華經一部の意を知つて、是に帰依するのであります。法華經全体の内容を「妙〇經」という五字を以てあらわしたのです。

是に頼り、是によつて救われる事を深く感謝するということとであります。そして、南〇經と唱えるのは、たゞ、この經典に帰依するという意味でもなく、又妙〇經という字の意味を理解したから帰依の念が起こるといふ意でもありません。法華經一部の意を知つて、是に帰依するのであります。法華經全体の内容を「妙〇經」という五字を以てあらわしたのです。この法華經に於て唯一絶対の本仏が、この娑婆世界の一切衆生を救う為に釈迦牟尼仏として此世に出現せられたという事が説かれてあります。又、釈尊は、我等が皆悉く貴い仏性をそなえていて、その仏性が、充分に開発せられ、ば誰でも皆、仏に成れるという事を明らかにせられ一切衆生を

成仏せしめるといふ御心で教えを説かれたわけですから、仏になる為には菩薩の修行であるところの「菩薩行」に励まねばなりません。心が菩薩になれば、おのずから題目をひろめて娑婆を利益する人を本化の菩薩とぞいふ

とお示しの御教歌のように、法華經の御本意である、一向令唱題目、が実践できれば、心は菩薩となり、他にもス、メルという事になりますから、先づ、唱えるという事が法華經の御本意に叶い、仏の教え

を素直に実行するから、ワレモ唱へ、他ニモス、メンノミコソ、今生人界ノ思出ナルベシ」といふ御妙判の実践が成就するのであります。

「妙〇經の極意は、人を助けんと行ずれば我身たすかるといふ菩薩行也。是則此經の御本意也。御弟子旦那之を信ずべき也。」(仏立要談) われも唱え、他にも唱えさせ、というように皆の心が菩薩になれば争いもなく、苦悩もなく、この穢土といわれてるところが浄土と変わって

くるのであります。これを「娑婆即寂光」と申すのですが、上行所伝のお題目を唱えることによつて、いついかなるときも諸天の守護もあり、災いは転じて福となる、という素晴らしき日常となるのであります。

法華經という教えの素晴らしさ、その魂というべきお題目の尊さをしっかりと認識しなければなりません。一向令唱題目と申して、ともあれ、お題目を一向に唱えるという日常の御信心が大切なのであります。